

H23 年度第 2 回保全事業報告会



<開催日時>

- 平成24年1月20日(金)19:00-20:30 谷津干潟自然観察センター(20名)

<説明内容>

- 国指定谷津鳥獣保護区保全事業計画(案)について
- 実証試験の経過報告と今後の予定について

※資料

[国指定谷津鳥獣保護区保全事業計画\(案\)について.pdf](#)

[実証試験の経過報告と今後の予定について.pdf](#)

国指定谷津鳥獣保護区 保全事業計画(案)について



関東地方環境事務所

1. 谷津干潟の重要性

シギ・チドリ類の採餌場

- ・年間80～100種の鳥(シギ・チドリ類は40～50種、採餌割合高い)
- ・谷津干潟は、泥質干潟を好むシギ・チドリ類にとって**重要な採餌場**

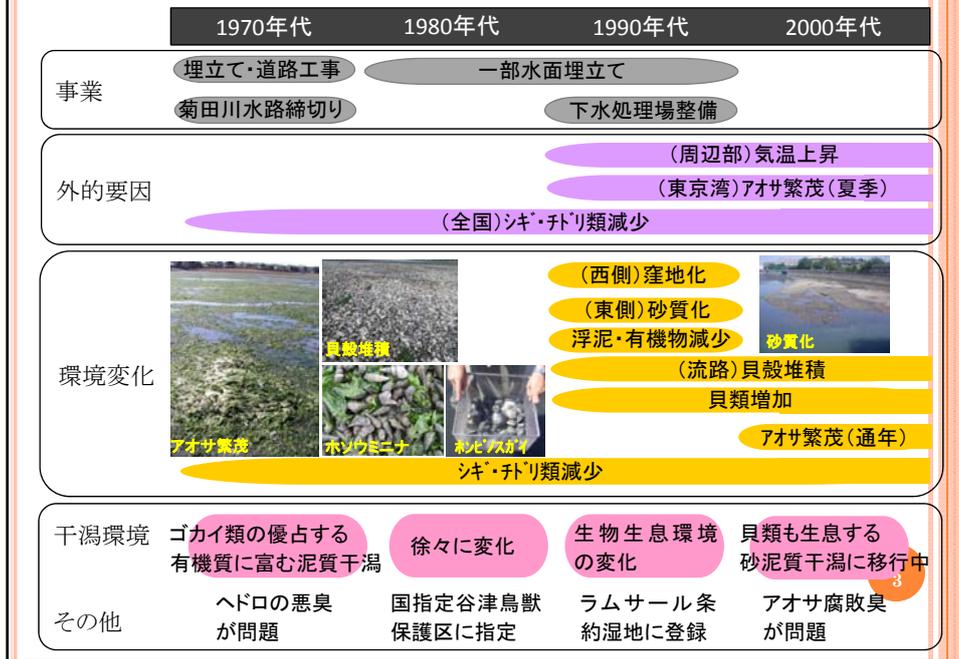
都市部に残された自然

- ・東京湾に面する干潟は埋立てられ、**都市部の中に残された自然**としての価値が高い。

地域の財産

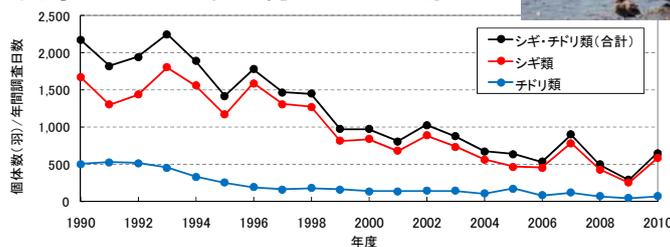
- ・地域の熱心な活動によって守られた干潟で、自然保護のシンボルとして**地域の誇り**であるとともに**かけがえのない財産**

2. 環境の変遷



2. 環境の変遷

- ・全国・谷津干潟ともに1970年代から減少
- ・谷津干潟では1990年の約1/4まで減少



シギ・チドリ類個体数の変化(谷津干潟)

出典:環境省鳥類調査結果、2005年度までは原則月2日調査、2006年度からは原則月4日調査

○ 今後想定される変化

- ・1990年代にみられた窪地化、砂質化(泥の流出)は収束傾向
- ・2000年代は貝類増加やアオサ繁茂等がみられる。

- ・底生生物相に占める貝類の割合が増え、
ゴカイ食のシギ・チドリ類が更に減少する可能性が懸念

3. 保全事業の実施

【位置付け】

シギ・チドリ類の採餌場

都市部に残された自然

地域の財産

国指定谷津鳥獣保護区

- 目的
鳥類の保護・生息地の保護
- 指定要件
集団渡来地

ラムサール条約登録湿地

- 目的
湿地の保全と賢明な利用
- 湿地の特徴
泥質干潟、シギ・チドリ渡来地

【現状】

シギ・チドリ類の飛来数の減少

アオサ悪臭による生活環境の悪化

○ 保全事業の実施(平成22年度～)

国指定谷津鳥獣保護区で渡り鳥(シギ・チドリ類)の渡来数が大幅に減少していることから、鳥類の生息環境の改善等を目的として、鳥獣の生息地の保護及び整備を図るための**保全事業を実施**

4. 望ましい姿(案)と保全の対象

○ 望ましい姿(案)

都市部の中に残された貴重な干潟であることから、自然の営みと人々の生活のバランスが保たれ、自然と人が共生できる干潟を目指し、

地域によって守り受け継がれてきた谷津干潟を、世界に誇れるシギ・チドリ類の渡来地として、安らぎ・憩える地域のかげがえのない財産として、将来にわたって地域とともに継承していきます

○ 保全の対象

鳥類(シギ・チドリ類)が渡来(採餌)できる干潟環境の保全

周辺住民の生活環境の保全
(アオサ悪臭対策)

5. 保全目標(案)

シギ・チドリ類の採餌環境

●保全の目標(案)

短期的目標 : 現状維持

中長期的目標: ラムサール条約湿地登録時(1993年)の干潟

●保全の指標(案)

干潟の面積・干出時間、ゴカイ類の湿重量

周辺住民の生活環境

●保全の目標(案)

短期的目標 : 現状より軽減

中長期的目標: 著しい障害を及ぼさない状態

●保全の指標(案)

アオサの分布面積・堆積厚・腐敗状況(夏季)

7

6. 保全の考え方

① 現象をできる限り解明して効果的・効率的な対策を講じます

できる限り科学的に解明し、その原因を取り除く・又は影響を軽減

② 自然の営力を活かした保全手法を採用します

人為を加えるのは最低限、自然の営力を活かし維持管理を軽減

③ 順応的な対応により事業を進めます

小規模に試験実施して応答をモニタリングし、徐々に規模を拡大

④ 住民との協働の仕組みづくりに努めます

情報を広く公開、住民意見を聴きながら地域と一緒に取組む

⑤ 広域的な視点から計画をつくります

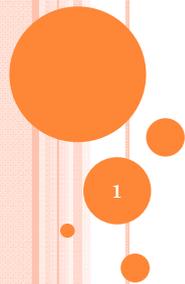
周辺干潟の保全計画との情報共有・ネットワークの構築

8

実証試験の経過報告と 今後の予定について



関東地方環境事務所



1. 課題と対策メニュー

保全対象	保全上の課題	想定要因	対策メニュー	優先度
シギ・チドリ類の採餌環境	<p>排水障害(下げ潮時) 窪地化</p>	通水経路への堆積 埋立て時の堆積泥の流出	堆積物除去 嵩上げ(土砂投入)	短期的目標達成には優先度低い
	<p>底生生物相の変化(貝類の増加)</p>	泥流出に伴う砂質化 アオサ堆積・腐敗に伴う表層の嫌気化	貝類採取(除去) 底質改良(泥投入) 嵩上げ 滞開削・堆積物除去(分散促進)	※実証試験(実施中) 中長期的な対応の優先度高い
周辺住民の生活環境	<p>アオサ腐敗臭</p>	アオサの堆積・腐敗 アオサの集積・吹寄せ	アオサ回収等 嵩上げ・木杭等	※継続実施中 緊急的な対応が必要 ※実証試験(計画)

2. 実証試験のメニュー

○ 底質改良試験の経過報告

- 目的:底質中の泥分増加による効果と影響の現地検証
- 内容:原底質(砂泥)に泥をかぶせる。
- 施工:平成23年3月(実績)
- モニタリング:平成23年9月・11月、平成24年1月実施(実績)

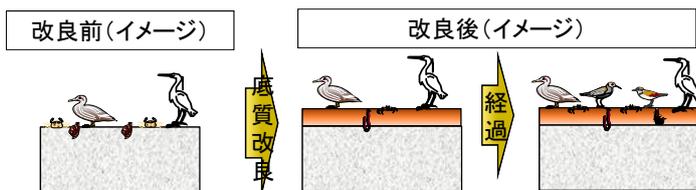
○ 嵩上げ試験の計画説明

- 目的:嵩上げによるアオサ集積・吹き寄せの抑制効果と影響の現地検証
- 内容:原底質に砂を盛り地盤高を高くする。
- 施工:平成24年2月下旬～3月(予定)
- モニタリング:平成24年度以降(予定)

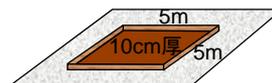
3

3. 底質改良試験の経過報告

○ 試験概要



底質改良区(3区画)
比較対照区(3区画)



4

3. 底質改良試験の経過報告

○ モニタリング結果

底質改良区のモニタリング結果			
項目	H23.9 モニタリング	H23.11 モニタリング	H24.1 モニタリング
地形	沈下(比較対照区も沈下)	—	(今後調査)
底質	泥分多い状態が維持	泥分多い状態が維持	(分析中)
底生生物	ゴカイ多(2区画) ゴカイ無(1区画)	ゴカイ多(2区画) ゴカイ少(1区画)	(分析中)
鳥類	シギ・チドリ類の利用は未確認	—	ダイセン・ハマシギ・シロチドリ の採餌を確認

H23.3施工時の底質改良材
比較

比較対照区のモニタリング結果

比較対照区のモニタリング結果

今回使用した底質改良材は、比較的早期に
周辺と同程度以上の底生生物の生息場を形成
➡ 今後もモニタリングを継続

巣穴(カニ・ゴカイ)
ハマシギ
谷津干潟自然観察センター撮影(H23.4)
ダイゼン
日本野鳥の会千葉支部撮影(H23.9)

4. 嵩上げ試験計画

○ アオサの堆積・腐敗状況(東側)

- 8月下旬～9月中旬
アオサ腐敗が進行
- 9月下旬
アオサがほぼ消失
- 10月～11月
急速に分布域が拡大

9/12: 干潟からアオサが消失(a)

10/12: 干潟中央部からアオサが増え始める(c)

10/24: 干潟中央部のアオサ増加(b)

一部は北側に寄せられていた(c)

11/9: アオサが干潟の東側のほぼ全域に広がった(c)

4. 嵩上げ試験計画

○ アオサの堆積・腐敗状況 (バラ園東側)



5/9



7/11



5/20



7/13



5/30



8/26



6/13



9/26

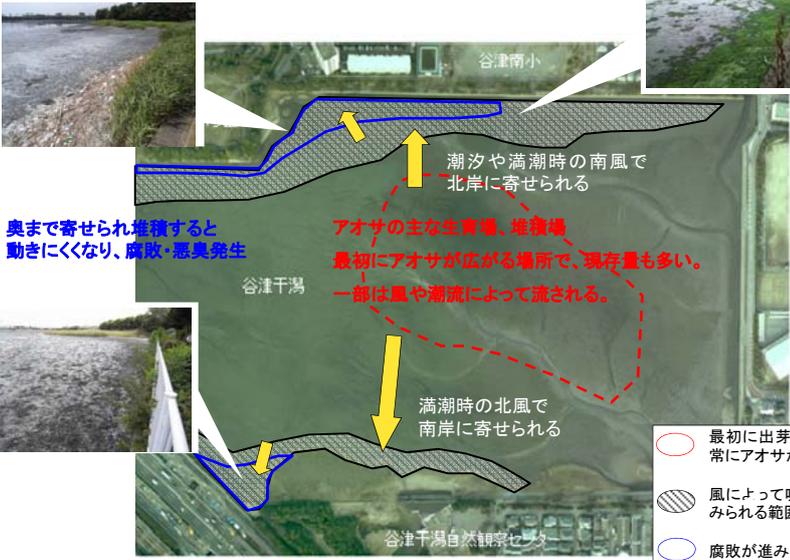


関東地方環境事務所成田自然保護官事務所撮影

4. 嵩上げ試験計画

○ アオサの堆積・腐敗の要因

吹き寄せられたアオサが、流れが弱い場所に堆積



奥まで寄せられ堆積すると動きにくくなり、腐敗・悪臭発生

アオサの主な生育場、堆積場
最初にアオサが広がる場所、現存量も多い。
一部は風や潮流によって流される。

満潮時の南風で北岸に寄せられる

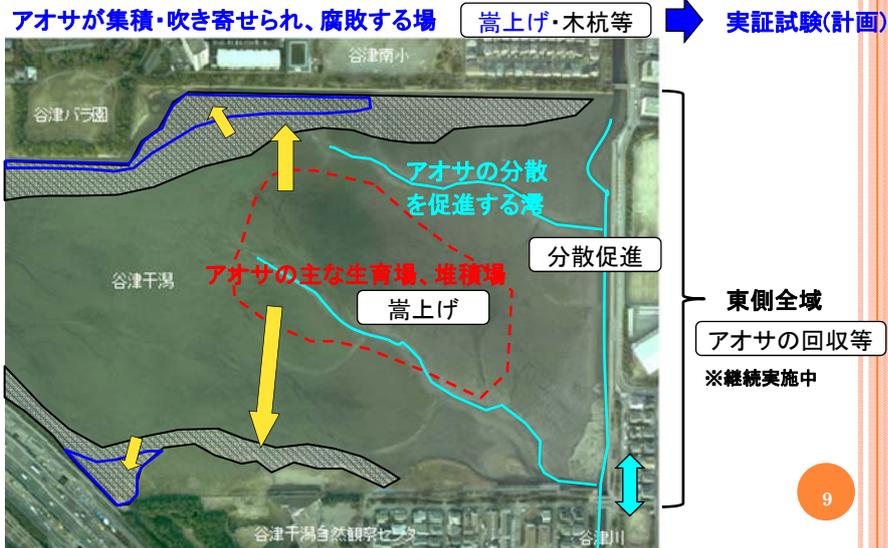
満潮時の北風で南岸に寄せられる

谷津干潟自然観察センター

- 最初に萌芽、繁茂が認められ、常にアオサが多い範囲
- 風によって吹き寄せられ堆積がみられる範囲
- 腐敗が進み悪臭が顕著な範囲

4. 嵩上げ試験計画

○ 対策のメニュー



4. 嵩上げ試験計画

○ 対策の考え方

- 目的: 嵩上げによるアオサ集積・吹き寄せ抑制効果と影響の現地検証
- 内容: 原底質に砂を盛り地盤高を高くする。
- 施工: 平成24年2月下旬～3月(予定)
- モニタリング: 平成24年度以降(予定)
- 検証事項
 - ・対策によりアオサの集積・吹き寄せが抑制されるか?
 - ・嵩上げた地形は維持されるか?
 - ・嵩上げ部に底生生物が生息し、鳥が利用するか?

今後、嵩上げ対策を進めるにあたって、
➡ 具体的な対策内容(地盤高、形状、嵩上げ材等)を検討

10

4. 嵩上げ試験計画

○ 対策内容

アオサ悪臭が特に問題になっている場所



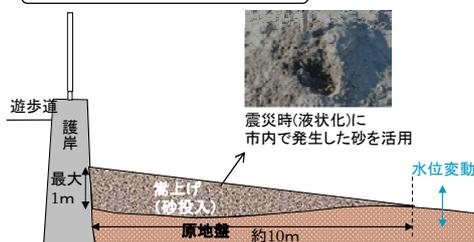
嵩上げ試験の施工予定箇所



嵩上げ試験の施工イメージ



嵩上げ試験の施工断面



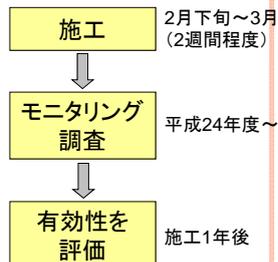
4. 嵩上げ試験計画

○ 施工内容

施工平面図



施工の流れ



※規模を拡大させるか
手法を変更するか検討

施工時の環境配慮

- ・住民への配慮……………作業内容の周知、施工時間の短縮
- ・利用者、通行者への配慮……………安全確保、交通整理
- ・自然環境(鳥類、濁り等)への配慮……………干潟への侵入・攪乱を極力減らす
潮汐を勘案した施工計画の策定